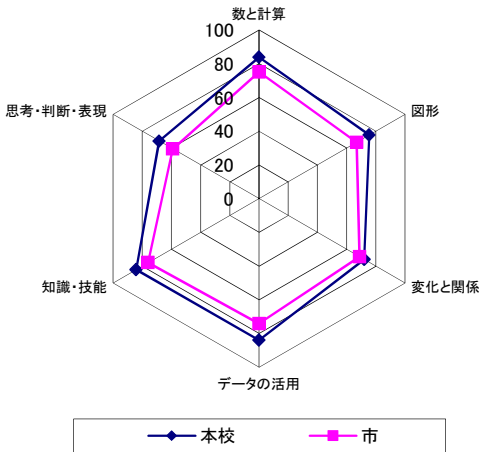


宇都宮市立錦小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.9	75.1	75.8
	図形	75.5	66.8	68.3
	変化と関係	72.1	68.8	65.0
	データの活用	84.0	74.1	63.6
観点別	知識・技能	84.1	76.1	75.8
	思考・判断・表現	68.4	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は83.9%で市より8.8ポイント高かった。 ○図を見て何倍かを求める、小数倍の文章問題の立式をする問題の正答率は91.8%で市より15.8ポイント高かった。 ●約分のある分数×分数の計算問題では、正答率が79.6%で市より4.1ポイント低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算の反復練習を継続して行って定着を図るとともに、個別指導を通して、一人一人のさらなる習熟を図る。 ・具体的な場面と式を結びつける学習を可能な限り取り入れ、活用する力を養う。
図形	・平均正答率は75.5%で市より8.7ポイント高かった。 ○高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積を求める問題の正答率は65.3%で市より26.8ポイント高かった。 ●線対称について理解し、示された方法で図形を作ることができるかどうかを説明する問題は、正答率が市より8.3ポイント高かったものの46.9%と低かった。	・示された図形の面積を求めたり、求め方について筋道を立てて考え説明する力はよく身に付いているので、更なる定着を図っていく。また、対称な図形に関しては、実際に作図をする活動を行うなど、いろいろな問題に触れる機会を多くし、習熟を図っていく。
変化と関係	・平均正答率は72.1%で、市より3.3ポイント高かった。 ○基準量と比較量から割合を求める問題の正答率は61.2%で市より7.4ポイント高かった。 ●表から面積と数の割合を求め、密度が高いものはどれかを問う問題の正答率は69.4%で市より4.0ポイント低かった。	・単位量あたりの大きさ・速さの問題に苦手意識をもっている児童には、比較量と基準量の求め方や違いについての基本問題を指導し、反復して取り組むようにさせる。
データの活用	・平均正答率は84.0%で、市より9.9ポイント高かった。 ○中央値を求める問題の正答率は91.8%で市より16.3ポイント高かった。 ●ドットプロットのデータを度数分布表に表す問題の正答率は83.7%で市より2.2ポイント低かった。	・代表値の意味や求め方、度数分布を表す表やグラフの特徴と使い方について、様々な問題に取り組ませることで、表やグラフで表されたデータを多面的に分析し、活用する力の伸長を図る。 ・データを収集したり分析したりする際、身近で関心の高い題材についてのデータを取り入れ、データ活用への関心を高める。